



第95回 兵庫県 メーデー神戸中央大会

4月27日(土)、神戸・大倉山公園野球場で、第95回兵庫県メーデー神戸中央大会が開催され、雨天の中、兵教組の参加者約130人を含む、約5,000人(主催者発表)が集まつた。また、会場内では、食品ロスの削減に資する「フードドライブ」のとりくみもおこなわれた。

今次のメインスローガンは、「連帯の力で 平和と人権を守り 誰もが安心して暮らせる新たなステージへ! 被災地の復旧・復興に向けて みんなで支え合い・助け合おう!」。

式典開会に先立ち、会場隣接の「兵庫県解放運動無名戦士の碑」への献花式がおこなわれた。春闘に上り、改めて大幅な賃上げと安心な暮らしの実現

を訴えた。来賓には、片山兵庫県副知事や、久元神戸市長らが列席し、挨拶した。また、「現場の声」として、兵教組より北井宏昌中央執行委員が、学校現場の実態や、教職員の勤務・労働条件の改善にとりくむ決意を述べた。さらに、JPL労組からも、人員不足や、厳しい勤務環境の実態が報告された。式典終了後、抽選会がおこなわれ、当選者へ賞品が贈られた。

石川県能登半島での大地震発生から11月18日目となる本日、第95回兵庫県メーデー神戸中央大会を開催した。改めて、亡くなられた方々に謹んで哀悼の誠を捧げるとともに、被災された方々、いまだ避難生活を続けておられる方々に、心からお見舞いを申し上げる。そして、一日も早く平穏な日々が取り戻せるよう心からお見舞いを申し上げる。

2024春季生徒闘争は、労使の真摯な交渉の積み重ねにより、これまで多くの組合で昨年を上回る賃上げを獲得している。デフレマイントを完全に払しょくし、新たな経済社会へ移行する正念場において、私たちちは大きな一步をふみ出した。私たちは職場を通して社会を変え

メーデー実行委員会代表として、兵教組の深江理紗中央執行委員(連合青年委員会委員長)がメーデー宣言をおこなつた。

世界は「分断と対立」の道を突きすすんでいる。未だ終結の見えないロシアによるウクライナ侵略や度重なる北朝鮮によるミサイル発射など、平和と秩序を武力で破壊する暴挙を決して許してはならない。さらに、ミャンマー軍事政権による市民への弾圧、パレスチナ自治区ガザにおける人道危機の深刻化など、人類普遍の価値たる人権が脅かされている。連合は、ITUC(国際労働組合総連合)をはじめとする世界の働く仲間との国際連帯を強め、世

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合
代表者 戸山 卓香 也織 森福 1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2024/5/15
No.2093

第一回教文部長会・教研推進委員会
5・3兵庫憲法集会

ら願う。

私たちも、これまでも、これからも連合に結集するすべての組織が「支え合い・助け合い」の心を一つに、被災地・被災者に寄り添った支援活動にとりくんでいく。

メーデー宣言を

私たちは、これまで、これからも連合に結集するすべての組織が「支え合い・助け合い」の心を一つに、被災地・被災者に寄り添った支援活動にとりくんでいく。

世界は「分断と対立」の道を突きすすんでいる。未だ終結の見えないロシアによるウクライナ侵略や度重なる北朝鮮によるミサイル発射など、平和と秩序を武力で破壊する暴挙を決して許してはならない。さらに、ミャンマー軍事政権による市民への弾圧、パレスチナ自治区ガザにおける人道危機の深刻化など、人類普遍の価値たる人権が脅かされている。連合は、ITUC(国際労働組合総連合)をはじめとする世界の働く仲間との国際連帯を強め、世

界平和の実現と自由で民主的な世界の構築にむけて行動していく。

2024春季生徒闘争は、労使の真摯な交渉の積み重ねにより、これまで多くの組合で昨年を上回る賃上げを獲得している。デフレマイントを完全に払しょくし、新たな経済社会へ移行する正念場において、私たちは大きな一步をふみ出した。私たちは職場を通して社会を変え

以上、ここに宣言する。

そして、日本の持続可能性に関する構造的な課題の解決も待ったなしである。私たちも、「働くことを軸とする安心社会」—まもる・つなぐ・創り出す—の実現にむけて、政策課題の改善に真正面からとりくみを

ジェンダー平等の推進はも

とより、さまざまな人たちとの対話と集団的労使関係を社会に広げるとりくみを

すめるとともに、働く者・生活者の立場にたつた政治勢力の結集・拡大をめざす。

今こそ、私たちの連合の力で、平和と人権が尊重され、誰もが安心して暮らすことのできる社会を、そして一日も早い被災地の復興を実現しよう。

以上、ここに宣言する。

そして、日本の持続可能性に関する構造的な課題の解決も待ったなしである。私たちも、「働くことを軸とする安心社会」—まもる・つなぐ・創り出す—の実現にむけて、政策課題の改善に真正面からとりくみを

ジェンダー平等の推進はも

とより、さまざまな人たちとの対話と集団的労使関係を社会に広げるとりくみを

<p

